



広田みよ、6月議会で質問しました！



生活保護は正しく理解して！

芸能人の母親の生活保護受給報道をきっかけに、扶養が生活保護適用の前提条件であるかのような取り上げ方をされています。失業者、非正規社員が増加し、貧困率が上昇。餓死や孤独死も起きている現状で、いま求められるのは生活保護などセーフティーネットの充実と正しい理解です。



広田

国会で小宮山厚生労働大臣が「扶養がなくても、保護を受けることはできる」と答弁している通り、金沢でもそうしているか？



市長

扶養調査は個々の事情に応じて行っているが、国の方針通り、扶養がなくても保護を受けることはできる。



広田

本来、生活保護を受けられるはずの2割の人しか利用できていないのが現状。憲法25条の生存権という観点から保護業務に取り組む必要があると思うがいかがか。



市長

憲法に定める生存権という認識にそって業務に取り組むことは言うまでもない。

コクホ

国民健康保険は高すぎるよ！

もともと高い国保が今年度も値上がりし、市民からお困りの声が届いています。夫婦＋お子さん二人の所得300万／年の世帯で、保険料は41万1240円／年と1割以上。滞納すると保険証を取り上げられ、命を落とす危険も出ています。市民の実態に沿った国民健康保険の改善が求められます。



広田

誰もが払えるように保険料を下げるべきだし、保険証の取り上げはやめ、減免制度の拡充も考えてはどうか。



市長

国が負担していた費用が減られ、市の財政運営は厳しく、保険料は引き下げられない。減免制度のさらなる拡充は考えてない。



広田

来年度は「旧ただし書き方式」へ算定方式が変更となり、低所得や多人数世帯、障がい者のいる世帯で保険料が上乗せになる可能性があり、どう考えているのか。



市長

「旧ただし書き方式」では、広く薄く負担を求めることで、中所得者の負担は是正されるが、家族の多い世帯などでは保険料があがる。経過措置と相談体制をとるつもりだ。

子育てしやすい環境にしよう！

日本の出生数は過去最低になり、1992年以来少子化と人口減少に歯止めがかかりません。その理由は国民の意識の変化ではなく、雇用の減少や経済的な問題が大きいと言われています。経済面・環境面で本市も支援することが求められます。



広田

地域主権改革に伴う権限移譲で、保育園の施設基準がつくられているが、今までの本市の基準を下回るようなものにならないか。



市長

保育所の最低基準の条例化は、保育関係者と協議しており、これまでの金沢市の基準を基本とする予定だ。



広田

障害をもったお子さんが保育所に通う統合保育に対し、さらなる支援が必要と思うがどうか。



市長

統合保育は100人の子どもたちが利用しているが、保育補助要員の人員費や専門家による巡回での相談など今まで通り行っていく。



広田

お子さんの医療費助成制度が県内で最低レベルになった。中学校卒業まで無料になるのはいつか。



市長

お子さんの医療費助成の年齢拡大は、財源の確保に努め努力していきたい。



広田

生活困窮者や低所得者などに安価で良好な環境を提供してきた市営住宅の役割は非常に大きいですが、どう評価しており、今後どうしていくつもりか。



市長

市営住宅は、セーフティーネットとしての役割をはたしてきた。今後も整備基準や入居要件など、引き続き住宅に困窮する方に十分配慮した内容となるよう検討をしていきたい。



広田

倍率が低い部屋の理由はなにか？そして、計画を前倒して整備するつもりはないのか。



市長

人気のない部屋は、古い、お風呂がない、バリアフリーがまだなどあるが、改善は計画的に行う。高齢者の増加が認められる中、新設ではなくストックを活用しながら、機能向上に努めていく。

市営住宅を充実させて！

地域主権改革による権限移譲にともない、市営住宅についても本市独自の条例改定を行っており、市の姿勢が問われます。現状では高い抽選倍率に整備がされない建物も多く見られ、早急な対策が求められます。またセーフティーネットとしての機能が活かせる運営が必要です。